



編集発行
 公益財団法人 **不老会**
 〒460-0008
 名古屋市中区栄
 2丁目10-19
 名古屋商工会議所内
 9:00~12:00 13:00~17:00
 土日祝休
 電話 (052)203-4580
 FAX (052)253-7123
 ホームページ
<http://furo-kai.or.jp>

年頭のご挨拶

理事長 久野格彦



皆さん、明けましておめでとうございます。

健康で、明るく楽しいお正月を迎えて頂けたでしょうか。

さてさて、社会変化が目まぐるしい昨今ですが、昨年も随分と大きな変化が日本社会を揺るがせました。

米国のトランプ大統領の関税措置。自らを「Tax Man」と呼び自国民と経済を守るために世界中の国々に高関税を課しました。各国は直接交渉を米国に迫り、日本を含め多くの国は何

某かを引き換えに関税引き下げに成功しています。結果的に、ビジネスマン・トランプ大統領の「Deal」が勝利したように見えます。

関税政策はかなり強引な手法に見えますが、その腕力でガザ地区の停戦実現にも大きく寄与しました。「米国はもう世界の警察ではない。」と民主党政権時代のオバマ大統領が言った事がありますが、この停戦事案についてはかなりのプレッシャーを当該者達に与えたのではないのでしょうか。毎日のように現地から送られてくる画像を茶の間で見るたびに、戦火に追われる子供達に直接何も出来ない自分自身に歯が



(不老会ホームページへ)



ゆい思いをします。同様の惨事はウクライナでも起こっています。そしてここでも停戦に向けた交渉に米国が関わっています。米国の国際的な関与が常に正しいとは思いませんが、一日でも早くウクライナの一般市民が安心して暮らせるようになるのならば先ずは停戦の実現に米国の力も利用すべきでしょう。先に大関昇進を果たした安青錦がインタビュで母国の現状を憂う発言をする事はありませんが、関取も常に家族の安全と母国の安定を願っているに違いありません。

さて、二〇二六年は始まったばかりですが、今年は何が起こるのでしょうか。気候変動の影響で線状降水帯の発生が頻繁になっています。東南地震の発生確率が随分と高くなっています。大災害や大地震はオレが成願してからにしてくれ。」と祈っているのは僕だけでしょうか。皆さんも最後の最後まで健康でハッピーな毎日をお過ごし下さい。

昨年、我が国初の女性総理大臣が誕生しました。世界的に見れば日本の女性議員の比率は全国会議員の約一〇%で一八六カ国中一六四位という少な

さです。因みに欧米各国では三〇%、四〇%が女性議員。高市総理はマジョリテイが男性議

員であるにもかかわらず一〇%の女性議員中から選出された訳ですからそのポテンシャルが大いに期待されていると言えます。先般の高市総理の国会発言を問題視した中国が過剰反応を示しています。当面冷却期間が必要でしょう。政府も国民も当分静観すべきと思います。



1982年【昭和57年6月8日】	「献体の塔」建立奉賛会設立総会を行う。
1983年【昭和58年4月16日】	会員10,000名突破記念総会を名古屋商工会議所2階ホールで開き、街頭パレードを行う。
【同年6月15日】	三重大学が離脱。
1984年【昭和59年5月11日】	「献体の塔」起工式を行い、建設に着手する。
1985年【昭和60年4月11日】	高松宮殿下同妃殿下の御台臨をいただき、「献体の塔」竣工式並びに献体者感謝式を行う。
【同年5月16日】	第1回献体者顕彰式並びに御名札納め式を行う。(以後毎年5月に実施)
【同年6月18日】	献体の塔を名古屋市に寄付採納する。
【同年9月20日】	「献体の塔」建立奉賛会解散式を行う。
1986年【昭和61年5月7日】	第1回「献体の塔」清掃作業を実施する。(以後年3回の清掃実施)
1988年【昭和63年3月29日】	篤志解剖全国連合会第18回総会(当番校=名古屋市立大学医学部)が開かれる。
1992年【平成4年5月14日】	第18回献体者顕彰式並びに御名札納め式に併せて不老会設立30周年記念式典を行う。
1996年【平成8年5月29日】	濱島辰雄が第2代理事長となる。前理事長 久野庄太郎が名誉理事長となる。
1997年【平成9年3月24日】	篤志解剖全国連合会第27回総会(当番校=愛知医科大学医学部)が開かれる。
【同年4月8日】	名誉理事長 久野庄太郎様ご成願。(名古屋大学に献体)
【同年8月23日】	「久野庄太郎を偲ぶ会」を熱田神宮会館にて執り行う。
2000年【平成12年5月26日】	竹内弘が第3代理事長となる。前理事長 濱島辰雄が名誉理事長となる。
2004年【平成16年7月29日】	小田悦雄が第4代理事長となる。前理事長 竹内弘が常任顧問となり、不老会創立40周年記念事業推進委員会委員長に就任する。
2005年【平成17年3月5日】	常任顧問 竹内弘様ご成願。(名古屋大学に献体)
【同年4月26日】	創立40周年記念誌「愛知用水と不老会」濱島辰雄著完成記念出版披露パーティー開催。
2006年【平成18年8月21日】	文部科学省より「特定公益増進法人」に認定される。
2007年【平成19年1月30日】	不老会創立45周年記念事業「いきいき人生の集い」を開催。 記念講演会の講師として、聖路加国際病院 日野原重明先生。
【同年11月9日】	会員20,000名突破。
2011年【平成23年11月15日】	不老会創立50周年記念事業「明日の医療の発展を願って～医療と献体～」を開催。 記念講演会の講師として、帯津三敬病院名誉院長 帯津良一先生。
【同年12月13日】	創立50周年記念モニュメント除幕式。(献体の塔前広場)
2012年【平成24年4月1日】	愛知県に、公益財団法人不老会として認定される。
【同年5月17日】	北村直哉が第5代理事長となる。
【同年7月23日】	前理事長 小田悦雄が顧問となる。
2013年【平成25年10月15日】	名誉理事長 濱島辰雄様ご成願。(藤田医科大学に献体)
2016年【平成28年10月4日】	不老会創立55周年記念事業「明日に向けて～不老会の発展と医学生の将来の為に～」を開催。 記念公演として、公演「花火」すわらじ劇園。
2020年【令和2年6月16日】	久野格彦が第6代理事長になる。
【同年7月10日】	前理事長 北村直哉が顧問となる。
2021年【令和3年10月25日】	不老会創立60周年記念事業「“人生、百年時代”～献体までの元気な過ごし方～」 記念講演の講師として、名古屋大学大学院医学系研究科 葛谷雅文先生。
2025年【令和7年3月25日】	顧問 北村直哉様ご成願。(愛知医科大学に献体)

不老会創立65周年 不老会のあゆみ

不老会創立65周年記念に寄せて

久野格彦

1962年(昭和37年)1月に不老会は創立なので、2026年の1月が創立65周年となります。不老会は公益財団法人の為、一般民間企業と比較するのは不適切かもしれませんが、民間企業の平均寿命が20年から30年と言われているのに比して65年というのは一般企業の2~3倍の寿命であると言えます。これは不老会の存在が社会的に意義のあるものであり、会員のみならず多くの医療関係者、またそれに関わる人々からその役割が重要であると認識されている証でしょう。

私事で恐縮ですが、不老会創立当時私は7歳。現在は70歳と不老会と同じように齢を重ねて参りました。先日中学の同窓会があり参加者は全員70歳(同級生だから当たり前ですが)。話題と言えば病気と薬と通院の話。会場には50名以上が集ったのですが残念ながら不老会の会員には巡り会う事はありませんでした。それもその筈、僕が自分自身の「病気と薬と通院」の話に忙しかつたから。

「人生最後のボランティア」献体活動は大変意義深い社会貢献活動です。一人でも多くの方々にその意義を理解頂き、献体活動にご参会頂ければと考えます。



不老会初代会長 久野庄太郎

年月日	出来事
1961年【昭和36年6月】	久野庄太郎は愛知用水建設で犠牲となられた56名の霊を弔うため、用水沿線各地より土を集め、水利観音500体をつくり、ご恩になった方に配った。 名古屋大学総長 勝沼精蔵先生のところにお邪魔した時に苦しい胸のうちを申し上げたところ、解剖用遺体の不足を教えられ、自らの遺体を献体(昭和36年7月13日登録)することによって安心立命を得ることができ、家族や同志にはたらきかけ、その輪を拡げていった。 これが不老会の始めとなった。
1962年【昭和37年1月21日】	遺体献納の同志120名が愛知県中小企業センターに集まり、不老会の発会式を挙げた。 (久野庄太郎 会長に就任) 提携大学は名古屋大学医学部。 以後、昭和47年まで春季総会と秋季総会・追悼法要を行う。
1965年【昭和40年9月】	会員1,000名となり、愛知県文化センターに於いて記念総会を開く。
1966年【昭和41年3月1日】	「不老会だより」を発行する。(以後毎月)
1967年【昭和42年9月】	三重大学と提携を開始する。
1968年【昭和43年11月4日】	名古屋市立大学医学部と提携を開始する。
【同年12月14日】	愛知学院大学歯学部と提携を開始する。
1971年【昭和46年2月5日】	「不老会だより」を引き継ぎ、機関紙「不老」を発行する。
【同年3月】	篤志解剖全国連合会が結成され、久野庄太郎が会長となる。
1972年【昭和47年6月28日】	財団法人不老会の設立が許可され、久野庄太郎が理事長となる。 (事務所を理事長宅内の愛水館に置く)
1974年【昭和49年5月18日】	名古屋保健衛生大学(現 藤田医科大学)と提携を開始する。
【同年9月17日】	第1回献体者慰霊祭を行う。(以後毎年)
1975年【昭和50年11月15日】	会員5,000名突破記念総会を熱田神宮文化殿で開く。 各市町村に支部を結成して支部旗を配布する。
1976年【昭和51年3月1日】	愛知県眼衛生協会(アイバンク)の事業が開始され、以後これに献眼する。
1977年【昭和52年1月15日】	役員会で献体者の「慰霊塔」建立の話題が提起された。 (その後曲折を経て「献体の塔」と命名)
1978年【昭和53年7月1日】	愛知医科大学医学部と提携を開始する。
1979年【昭和54年8月27日】	事務所を名古屋商工会議所ビル内に移す。



愛水館

不老会の集い

令和7年10月23日(木) 名古屋市公会堂に於いて、
「不老会の集い」が開催されました。

異常な暑さの続いた夏もやっと終わった10月の素晴らしい秋晴れの日、鶴舞公園内にある「岡谷鋼機名古屋公会堂（名古屋市公会堂）」において、540名の参加をいただいて、令和7年の「不老会の集い」が開催されました。

12時からの開場にもかかわらず、公会堂前には11時半頃から会員の方々の列ができ始めました。12時に受付が始まり、お土産を受け取り会場内へ。

ビデオ上映

成願者に対する黙祷

主催者あいさつ

記念講演

「なぜ免疫はそこを攻撃しないのか？」
～体の中の特別な“場所”の秘密～

愛知医科大学 解剖学講座

教授 内藤 宗和 先生

学生体験発表

愛知医科大学 医学部4年

齋藤 壮人 様

アトラクション

「森秀樹 with パンティーズ」



12時10分、開会を待つ間、今年度不老会が独自に作成し、今回初めてお披露目する「献体」ビデオが上映されました。会場内では会員の方々が熱心に鑑賞されていました。「解剖実習の映像を見られてよかった」「ビデオを見て感動しました。献体登録してよかったと思いました」など、会場の方の声も好評でした。



以前から献体登録はしていましたが、今回名古屋へ転居しあらためて登録しました。このような会ははじめて、DVDが良かったです。

(80代男性)

毎年来ています。(10回以上) 高齢になると外出する機会が少なくなるので、このようなイベントは楽しみです。

(80代女性)

先生のお話は少し難しかったです。

最近ノーベル賞でも注目された免疫に関する話で興味深く聞きました。

(60代女性)

アトラクションは毎年工夫をこらしていただいて楽しみにしています。

歌はいいですね♡

午後0時40分、開会し、成願者への黙祷の後、久野格彦理事長に代わり、杉浦康夫副理事長があいさつされました。



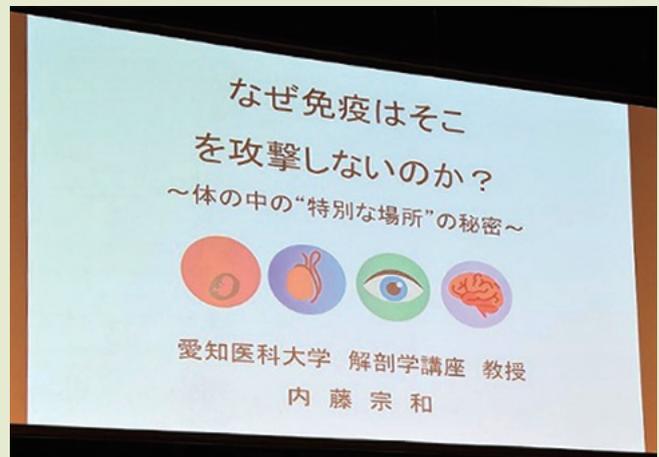
午後0時50分からは、愛知医科大学解剖学講座教授 内藤宗和 先生による記念講演がありました。

内藤宗和先生のご講演

「なぜ免疫はそこを攻撃しないのか？」 ～体の中の“特別な場所”の秘密～」

愛知医科大学解剖学講座教授

内藤宗和先生



最初に、「免疫とはなにか？」についてお話しします。自分ではないもの、異常なもの、例えばがん細胞やウイルスなどの病原体、これらを異物として見分けることをいいます。体の免疫細胞は、成長の過程で「自分」と「異物」を見分け、「自分は攻撃しない」と覚えていきます。この仕組みを「免疫寛容」といい、これが崩れると、「自分を敵と誤認」して病気になります。この細かな仕組みを発見されたのが先日2025年ノーベル生理学・医学賞を受賞された坂口志文先生です。

次に、「免疫が働かない場所とは？」についてお話しします。私たちの体には免疫が働きにくい特別な場所があり、この仕組みを「免疫特権」といいます。これが崩れると機能が守れなくなり、病気になります。この免疫が働きにくい場所として「脳、眼、精巣、胎盤」などが免疫特権を持つ臓器として知られています。

最後に、今日は、免疫が賢く働く仕組み、それから体の中には免疫が働かない場所があること、そしてそういう仕組みがいずれ医療に活用されて医療が発展する土台になっているということをお話しさせていただきました。

その後、ビデオメッセージにより、愛知医科大学医学部4年の齋藤壮人さんによる学生体験発表がありました。

愛知医科大学医学部4年の齋藤壮人です。医学部生、歯学部生を代表して、不老会の皆様へ感謝の気持ちを伝えたいと思います。実習の日程の都合上ビデオレターで失礼します。

私たちが初めてご献体と対面したのは、医学部1年生になったばかりの頃先輩方の解剖学実習を見学したときです。衝撃的でしたが、医師として人の体にメスを入れ、命を扱うという自覚が芽生えました。

2年前の春、初めて解剖学実習に臨みました。ご献体と向き合ったとき、教科書では知り得ない人体の複雑さと精巧さ、そしてチーム医療の基礎となる協力の大切さを学びました。ご献体を通して得た学びは、私の学術的な探求心を刺激し、研究への原動力となりました。2年間研究に没頭し、去年の解剖学学会でUndergraduate Poster Awardを受賞しました。この受賞は、内藤教授をはじめとする解剖学講座の先生方、ご献体くださった皆様、そしてご遺族の皆様のご厚志のおかげです。心より感謝申し上げます。

現在、4年生となり、病気について学び、国家試験や病院実習が始まっています。どの分野においても、解剖学で学んだ人体の構造が頭に浮かびます。皆様のおかげで、私たちは医学の道を一步ずつ進んでいます。

改めて、ご献体いただいた皆様、ご家族の皆様、そして不老会の皆様へ感謝と尊敬の念を申し上げます。皆様のご厚意を決して無駄にせず、立派な医師となり社会に貢献できるよう、日々精進してまいります。

午後1時50分からは、待ちに待ったアトラクションです。今年は、テレビ・ラジオ等の「のど自慢番組」で優勝し、全国大会にも出場するとともに、全日本歌謡選手権、長崎歌謡祭準優勝、NHKのど自慢大会チャンピオン等を受賞した実力者の“森秀樹”さんをお迎えしました。

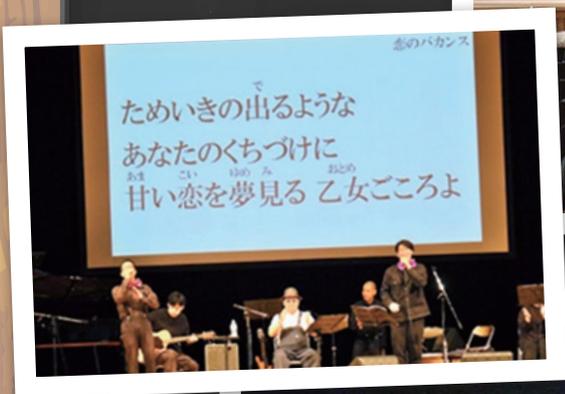
今日は、“パンティーズ”と共に「昭和」をテーマに、歌って楽しめるコンサートが展開されました。最初にジョンデンバーの「カントリーロード」から始まり、「上を向いて歩こう」「愛燦燦」「乾杯」「恋のバカンス」「お嫁においで」「君といつまでも」「マイウェイ」など昭和の歌謡曲満載のコンサートでした。最後は、会場全員による手拍子も出て、会場大盛り上がりでした。

素晴らしい纏めに
していただき感謝
です。

医学生さんたちが、
解剖実習を通して、
医師としての使命感
を感得されていた。

不老会員だった父が
最近成願しました。
父の思いを改めて知
り、涙が出ました。

不老会の会員として、
立派な医師誕生に貢
献できるお役に立ち
たいと思った。



医学のおはなし

人工知能(AI)という言葉

を、新聞やテレビで見聞きされない日はないのではないでしょう。AIは、小難しい計算や予測を人間に代わって行ってくれるばかりではなく、ご家庭の炊飯ジャーやエアコンなどの白物家電にも搭載されていますので、みなさんも知らぬ間にお世話になっていくことと思いません。「搭載」と言いますと、AIという物があるように思われるかも知れませんが、AIはパソコンやスマホにインストールされているソフトやアプリのようなもので、物理的な実体はありません。

AIは人間の頭脳に取って代わるものと考えられています。みなさんの「心」、「意識」に取って代わるとは思われたいのではないのでしょうか。一方で、何かにみなさんの心や意識を移植することができるように

なれば、生物としての「体」が寿命を迎えても、心や意識はパソコンのメモリのようなものにコピーされ「不死」を謳える時代が訪れるかも知れません。

実際、人工知能に準え、人工意識(AC)というものの研究開発が、メタやアルファベットなどのビッグ・テックと呼ばれるアメリカの企業によって進め

患者さんの意思(脳で流れる電気的な信号)がパソコンで解読され、それがロボットアーム(モーター)に伝達されることで、「コップに入ったジュースを飲みたい」という患者さんの思いが、ロボットアームがコップをつかんで患者さんの口元に運ぶという一連のアクションへと繋がります。

人工意識(AC)と不死の実現可能性

名古屋市立大学大学院医学研究科 統合解剖学分野

教授 植木孝俊

られています。その前段階としてブレイン・マシン・インターフェース(BMI)という技術が実用化され、脊髄損傷で四肢が麻痺した患者さんが、腕に代わるロボットアーム(義手)をあたかも自身の手腕のように操れるまでになっています。BMIでは脳とパソコンとロボットアームがケーブルで接続され、

AIがたたくさんのデータを学習し、超人的な答えを導き出す仕組みは、実は、まだよく分かっていません。一方で、私たちの心や意識は、脳に宿していますが、神経細胞同士は電氣的なやり取りによって、心や意識がで上がる仕組みも、まったく分かっていません。記憶や思考は、特定の刺激に興奮する

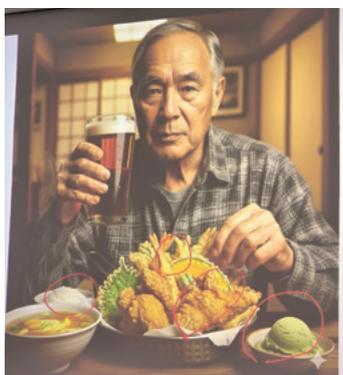
神経細胞の集団が、脳の前の方(前頭前野)に現れてくることと関連しているようです。そもそも心や意識とは何か?は、心理学や医学の難題で、それを人工的に作ることができるのかも不確かですが、意識(「心?」)が特定の興奮のパターンを示す神経活動の集団であることは間違いないので、私たちの意識を半導体のようなものにコピーするためには、その集団内の電気的なやり取りを記録し、それを電子回路に書き込む作業が必要です。BMIの技術の進展とともに、脳の活動を高い解像度できめ細かく読み取ることが可能となり、もう一つの課題である、読み取った電気信号をハードディスクドライブのような記録媒体にコピーする技術の開発と併せ、人工意識の基盤技術が構築されるのも、そう遠い未来のことではなさそうです。機械脳に私たちの意識がコピーされ、それがすでにゲームなどに応用されているバーチャルリアリティ(VR)技術と組み合わせられた時、私たちは「不死」を手にするのかも知れません。

藤田医科大学部会員の集いおよび解剖慰霊法要

令和七年九月三十日(火) 午前十時より、藤田医科大学 大学二号館六階にて、会員の集いが行われました。

医学部長 廣瀬雄一先生から、医学を志す者にとって、人体をよく知る事が最も大切です。不老会の活動に対して、心から、ありがたく感謝しておりますとご挨拶がありました。

次に、「お医者さんいらずな食事と運動療法」と題して、解剖生理学 准教授の林孝典先生から、健康上の悩みランキングをAIで調べると、「関節や筋肉の痛みで、「細胞が壊れると痛みが発生する」、「筋力低下」、「高血糖」「肥満・運動不足・ストレスなど」、「視力や聴力の低下」⑤物忘れ。飲食で注意すべき点は、①アルコール摂取は一日一合まで、②肉類などの揚げ物は少なめに、③白米に玄米を混ぜる、④甘いものや炭水化物は控えめに、なお、漢方の五苓散が良い。あとは、適度な運動に努めること。



AI食事風景

そして、解剖実習を終えた医学生さんとの会食と懇談会。

午後二時からは、フジタホール2000で、僧侶の読経の中、厳かな解剖体慰霊法要が行われました。(広報・齊藤 光男)

名古屋市立大学部会員の集い及び解剖感謝式

令和七年十月二十一日(火) 午前十時半より名古屋市立大学本部棟四階ホールにて会員の集いが行われました。

一般会員二十名、不老会役員五名が参加されました。成願者への黙祷の後、鈴木部会長から挨拶があり、不老会の現状や課題等についてのお話しがありました。

挨拶の後「肩の痛みの原因と治療」と題して名古屋市立大学医学研究科運動器スポーツ先進医学准教授の吉田雅人先生よりご講演がありました。成人に多くみられるのは、腕や肩関節周辺の炎症です。痛むときは、無理に動かさないのがいいが、長時間動きが悪いと筋肉や腱が固まってしまいます。治療は、まずリハビリを行い、症状が長引けば医師が患部を強く動かして固まった関節を剥がします。腱の断裂が認められれば手術が必要となるということでした。

その後、昼食を摂りながら不老会会員と解剖実習を終えた学生さんとの懇談会となりました。午後二時からは、さくら講堂において、解剖感謝式が、ご遺族や不老会関係者、大学関係者の参加を得て厳粛に執り行われました。(広報・鈴木 慎吾)



昼食を兼ねて不老会会員と学生さんとの懇談会



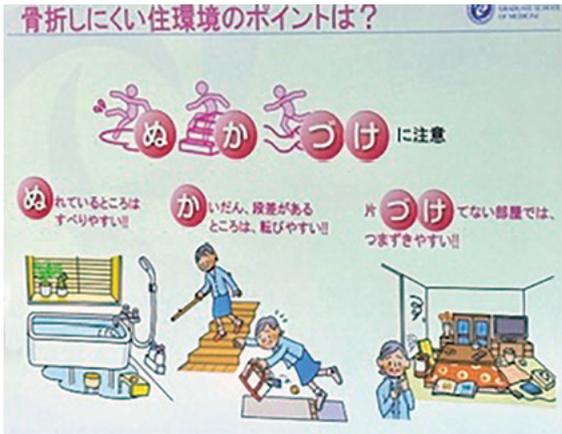
解剖感謝式

名古屋大学部会員の集い(講演会)および解剖弔意祭

令和七年十一月六日(木) 午前十時三十分より
覚王山日泰寺普門閣にて、不老会会員の集いが開催されました。

名古屋大学医学部長勝野雅央先生のご挨拶に続き、不老会久野理事長、杉浦副理事長がご挨拶された後、医学部二年生の西村佑紀さんが感謝の言葉を述べられました。

その後「運動器疾患と骨粗鬆症、ロコモを知ろう」といつまでも健康でアクティブな生活のために」と題して、名古屋大学大学院医学系研究科整形外科学教授、今釜史郎先生にご講演をいただきました。骨粗鬆症のチェック、ロコモチェック



ぬかづけに注意

等、症状に応じての病院受診と治療。散歩、ラジオ体操、水中ウォーキング、片足立ちやスクワットなどの日頃からできる運動習慣に加え、転倒を予防するなど「骨粗鬆症、運動器疾患、ロコモを予防治療して、快適な生活を!」と解りやすくお教えいただきました。

その後、学生さんと昼食を摂りながら懇談を楽しましました。

午後二時よりは、日泰寺本堂に於て、名古屋大学医学部解剖弔慰祭が厳かに執り行われました。

(広報・藤内美也子)

地域地区活動報告

知多市地区 研修会

令和七年九月三十日(火) 藤田医科大学医学部不老会員の集いに、特別参加をお願い致しましたところ、快く了解を頂き、会員十六名が参加致しました。

医学部長 廣瀬雄一様のご挨拶に続き、医学部解剖生理学準教授 林孝典先生の「お医者さんいらずな食事と運動療法」を受講いたしました。昼食懇談会は、学生(三年生)と同期して学生さんの夢と希望を伺い将来が明るくなりました。最後は、名古屋市のテレビ塔に久しぶりに入場、展望台よ

り四方八方を観て時の流れを感じました。
今年の研修会は、ハードでしたが、有意義な不老会活動となりました。

(代表・竹内 司)

豊橋市地区の集い

令和七年十月五日(日) アイトピアで開催しました。

若松代表の挨拶後、会員からの一人住まい孤独死は献体可能か、県を越えて転居した場合の登録について等質問に本部浅井常務理事より回答をしていただきました。その後、天狗連の上方落語と自彊術(じきょうじゅつ) 健康体操で楽しく過ごしました。出席者 四十八名。

(代表・若松美佐子)



上方落語 鶴橋ヘルメット 様

● 西尾地区 秋期会員研修会

十月十八日(土) 西尾市総合福祉センターで開催しました。

地域包括支援センター馬場恵美子様から、認知症の可能性が高まるなか、予防に効果がある座学、運動の実践指導を受講しました。全員が笑い声のなか、頭を使い同時に手足を動かす課題に四苦八苦の小一時間。後半では、会員の久保田様が「まちの体操教室」で行っている認知機能の脳を活躍させる口の大切さ、口を早く動かしてしゃべる「早口言葉」の練習をゲーム感覚で挑戦し、充実の研修会となりました。参加者二十五名

(代表：長谷 達士)

● 南区地区 会員の集い

十一月一日

(土) 南区社会福祉協議会において、数年振りに集いを開催しました。

質疑は、一人暮らしの方の「献体手続き」の確実な手立て、献眼に



ついでに、本部の浅井常務理事にご回答いただきました。中

村代表からは、パンフレットを子どもや喪主になつてくれる人に見せて下さい、と訴えられました。新不老会ビデオの鑑賞もあり、大変好評でした。出席者二〇名

(代表：中村 有章)

● 四地区(常滑市、阿久比、半田市、知多南部) 合同の集い

半田市、知多南部) 合同の集い

秋晴れの十一月六日、恒例となった「四地区合同の集い」が昨年より多くの会員の方々の参加で(五〇名) 盛大に開催されました。



知多南部地区代表



ご家族にパンフレットを見せて下さい!

全員で黙とうし、地区代表の挨拶から始まりました。

次に、本部浅井常務理事が自身の手術体験とおし挨拶されました。献体の現状、現代医学の進歩の速さ、ロボット操作で手術がされるAI時代の実態を話されました。

続いて、今回の出前講座として「睡眠について」の講演がありました。事前に配られた資料「睡眠チェックシート」説明があり、参加者の方々に各自ご家庭で一週間普段の眠りをチェックしてみてください。との提案をされました。また、睡眠改善のアドバイスとして、眠りと休養感、眠りの環境、日常生活習慣、嗜好品等日常生活で心がけることのお話があり、わかりやすく自分の眠りを見直してみる機会にもなりました。

最後に、おいしいものを食べて楽しく暮らす健康で日々過ごしましょうとのアピールがありました。のあちこちに参加者の笑顔が見られ散会しました。

(地区役員：山本 勝彦)



浅井常務理事

● 愛知西地区 会員の集い

十一月八日(土)津島文化会館で開催しました。会員さんから献眼に対する質問が多く、浅井常務理事からご回答をいたしました。

その後アトラクションで、加藤訓音様の三味線の演奏。最後は津軽じょんがら節で幕を閉じました。皆さんに大変喜んでいただきました。出席者三十八名 (代表・奥岡 貞明)



加藤訓音 様



第六十二回平和公園まつり

令和七年十月一日(水)平和公園まつりが行われました。

十七名の僧侶の方々より読経、献花をいただきました。平和堂・伊勢湾台風殉難者碑・無縁塚・

献体の塔・戦没者墓地を順に「回向・供養」して回られました。

(事務局)



献体の塔 清掃報告

令和七年九月二十五日(木)曇り空の中、二十一名の方のご参加をいただきました。

東山公園事務所の方が落ち葉を清掃してくださっていたお陰で、早く清掃を終わることが出来ました。ご参加いただきありがとうございます。

(事務局)



会員投稿

● 「俳画」

大府・東浦地区 野村 悦子



ありがとう

不老会成願者から角膜の提供を受け、光を取り戻した方々からお礼状が事務局に届きました。

- 豊田市 毛受 亨政 様
- 海津市 関間 克伸 様